



園芸作物栽培に関する

これからの対策と Q&A

6月の菜園管理

サクラの開花は昨年より遅れましたが、開花期以降の気温の推移は昨年並みとなってきており、今後の長期予報においても高温傾向が予想されており、また、日照時間はやや多く、降雨量はやや少

なめと予想されており、予想にしたがえば野菜栽培にとっては好適な気象条件が整い、順調な生育が期待できますが、病害虫の発生については一層の注意が必要となってきます。



大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

◎入梅前後の栽培管理

○水遣り

入梅前の2週間ほどは好天が続き水不足となりやすくなります。毎朝の水遣りは欠かせませんが特にナス、里芋は通路が白く乾いているようでは良いものはできません。またキュウリも水分が少ないと変形が多くなりやすくなります。

入梅以降は圃場排水を徹底し、圃場に滞水が発生しないよう注意してください。特に地這いの果菜類はツルが水溜りに接していると病害に侵されやすくなりますので、入梅前に敷きワラを充分に行っておきましょう。

○雑草の処理

梅雨時期の雑草の伸びは非常に速くなりますので、入梅前に除草を徹底しておきたいものです。除草剤を使用する場合は、ラウンドアップなど根まで枯らす剤を選択しましょう。散布は晴天日で朝露がなくなつた頃合いが最も効果的です。作業にあたっては作物への飛散に注意して行ってください。畝間などに散布する場合はブリグロックスやバスタ液剤を使用しますが登録内容を必ず確認してください。

特に畑をしていると気になるのがスギ



スギナの防除(除草剤散布にあたって除草剤用展着剤の添加、尿素の添加が効果を高めるとされています。)

ナです。スギナは地中深くに伸びている地下茎で広がっており根絶は極めて困難です。バスタ液剤(100倍で使用)の効果は高いのですが、散布後1ヶ月もすれば再生してきます。高くつきませんがラウンドアップの25倍液散布の方が再生はぐっと少ないようです。いずれにせよ出てきたスギナをマメに刈り取る、枯らすなどして栄養を蓄える余裕を与えないようにすることが肝要です。なお、石灰を撒くと枯れるといふことはほとんど期待できません。

○整枝

6月は夏野菜の生育が最も旺盛な時期となり、茎葉が繁茂し病害虫に侵されやすくなります。不要な枝葉を摘除し通風採光を図ることで健全な生育を促進しましょう。肥料のやり過ぎも病害に侵されやすくなる要因ですので作物の生育具合を見ながら調整しましょう。

○果菜類の追肥について

果菜類は一般的に栽培期間が長いので必ず追肥が必要となりますが、①トマト・ナス・キュウリ・ピーマンなど長期にわたって収穫が続く野菜と、②スイカ・メロン・カボチャのように収穫期間が限られているタイプに分かれます。



トマトの過剰施肥による葉の変形

①のタイプでは果実が肥大し始めてきたら追肥を始めます。小さい3号など化成肥料では月に3〜4回、1株に1回当たり指4本でつめる程度の量を株元から30cm程度は離れた位置に施します。マルチ栽培の場合はマル

チの端に施しておいてもよいです。

②のタイプでは着果が確認でき、幼果が卵大になったころに1株あたり軽くひと握りをツル先付近に施します。次に肥大最盛期(着果後2週間程度)に再度同量の追肥を行います。これ以降は基本的に追肥は行いません。遅くまで追肥をする、糖度の乗りが不十分であったり極端な場合、裂果を起す場合があります。

○泥の跳ね上げ防止

露地の栽培では雨の跳ね上げから病気に侵される危険性が増してきます。跳ね上げ防止対策としてマルチや敷きワラが有効な対策となります。ただしマルチの場合はマルチ上に水たまりができていないか点検し、水溜まりがあれば針金などで穴をあけて水溜まりを解消しておきましょう。

○防除

梅雨時期は病害虫の発生しやすい時期ですが降雨が続くと適期散布も難しくなります。一旦蔓延してしまつと撲滅することは困難となりますので、早急に対応し、1000等の予防剤の使用をお奨めします。書虫予防はなかなかできないので早期発見早期防除に努めます。多くの害虫は葉裏に寄生しますので、葉の食害、斑点、縮れなどが見受けられたら葉裏を確認するようにしましょう。家庭菜園では多くの作物、広範囲な害虫に適用のあるモスグリーン水溶剤が使いやすいです。

○ジャガイモ・タマネギの収穫

6月に入るとジャガイモとタマネギの収穫を迎えます。近年、これら野菜の腐りが多くなったとの声を聞きます。

ジャガイモですが、晴天が続ぎ土壌水分が抜けてくるのを計らって収穫しますが、米袋や肥料袋に入れて動かすと傷がつき腐りやすい原因となりますのでコンテナかタンポールを利用しましょう。

タマネギは腐り以外に黒カビの発生も問題となっています。いずれも傷ついた部分から病原菌が侵入してきますので注意が必要です。天気が良い日に収穫しますが猿が来ない、雨が降らない状況なら畝上に2日ほ

ここがポイント! **ウリ類の着果**

毎年、スイカ、ウリ、キュウリなどで雄花ばかり咲いて雌花がなく果実がつかないという相談を受けます。基本的には栄養が有り過ぎて(施肥が多くて)子孫(果実)を作る体制になっていないことによりです。また、摘芯をしていない(キュウリは除く)ケースも少なくありません。着果実するまでは肥料をやり過ぎないこと、摘芯をして子ツル、孫ツルの発生を促すことが必要です。

ど寝かしておいてから収納します。乾燥も茎葉は枯れあがるまで切らずに縛って吊り下げ、球の水分低下を促進します。黒カビは高温多湿状態で急速に蔓延しますので、高温時には特に風通しの良い所におきましょう。腐りは大きな球の方が出やすいので、立派なものから食っていきます。



タマネギの黒カビ

☆園芸相談事例から
バレイシヨの芽が出ない、もこへは不揃いである。
バレイシヨの芽立ちは地温との関係が大きいので、植え位置が深いと遅れやすくなります。また、水分過剰に弱いので、排水が良くないところや平畝とした場合、植え付け後の降雨状況によって芽立ちが不良となりやすくなります。イモの切り分けも芽の数を意識しながら行いましょう。

植えたプロットリー苗が枯れている。

近年、暖冬化の影響でネキリムシの越冬率が高まり、春先から被害がかなり見られています。ネキリムシは結構移動もして行くため被害も広がります。定植前のダイアジノンなどの土壌処理剤は欠かせなくなっています。また、粘質土壌では根朽病の発生も見られています。畝立てはしっかりと行ってください。

家畜糞堆肥の利用について

一般的に丹南地域で入手できる家畜糞は完熟品はほとんどありません。従って、入手したら切り返しをしながら半年くらい積んでおいてから使用されることをお奨めします。臭いの関係で困難な場合は入手次第、土壌混和し3ヶ月以上たつてから野菜の植付けを行うようにしてください。いきなり施用しますと水分を含み元の生の状態に戻ってしまうものもあり、アンモニアガスの発生で野菜の根が傷んでしまう危険性がありますし、害虫が寄ってきますやすくなります。



空きボトルを利用すれば雨中でも追肥作業が可能です。